

キリストを現代に伝える人たち ～内村鑑三～

内村鑑三(1861～1930)は、日本におけるキリスト教の歴史に欠かすことのできない人物です。「少年よ、大志を抱け」の名言と共にキリスト教の大きな感化を残した、ウィリアム・クラーク博士が教鞭を取っていた札幌農学校に学び、キリスト教に入信。卒業後、将来を有望視されていた水産学研究的の道を退き、教育者、伝道者、思想家となった彼は、不敬事件や非戦論でも知られるようになりました。

そんな彼に大きな転機となる出来事が起こります。それは、最愛の娘・ルツ子を病気で失うということでした。わずか18歳にして、原因不明の病に冒されたのです。そのような中でも、ルツ子は、信仰によって生き生きと輝いていました。そして、両親と共に最期のひと時を迎えていた彼女は、喜びの表情を浮かべ、その口から出たのは、「感謝、感謝」の言葉でした。それから1時間もしない内に、口元に微笑みすら浮かべ、「もう行きます」と言って、静かに息を引き取ったのです。その姿をまざまざと

見ていた父の胸には、ある確信が生まれていました。それは、天国でまた会うことができる、という確信です。

キリストはこう言われました、「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです」。この聖書の言葉の通り、キリストは十字架にかかって死なれた後、よみがえられました。このよみがえりのキリストを信じ、罪の解決と永遠の命の希望に生きる者にとって、死は永久の別れではありません。必ず天国において、再会することができるのです。

私たちの地上での命には、必ず終わりが来ます。しかし、キリストの救いをいただいた者は、決して終わりのない命に生きる希望をいただくことができます。内村は、娘ルツ子の死を通して、この信仰を悟ったのです。私たちも、この希望に生きる生涯を送りたいと思います。



復活の希望に生きる

今年のイースターは、4月17日です。イエス・キリストが墓の中から復活されたことを記念する日です。

多くの人は、死人がよみがえるなんて、そんなばかげたことがあるか、と言います。確かに人間の理性では考えられないことです。しかし、キリストは神のひとり子でした。神と等しいお方でした。そのお方が、死んでそのまま終わってしまうはずはありませんでした。

聖書にこのように書かれています。「しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。」(コリント人への手紙第一15章20節)

キリストが十字架で死なれたことは、学校でも教えられます。でも、三日目に墓の中からよみがえられたことは、教えられません。非科学的・非理性的に思えるからです。しかし、キリストの復活こそ、私たち人類の大きな希望です。なぜなら、私たちを死の恐れから解放するのは、キリストの復活だけだからです。

私たちは皆やがて死にます。そして、たい

てい人は死を恐れます。死の向こうにどんな闇の世界が広がっているかわからないからです。人はなぜ死ぬのでしょうか。その原因は罪です。罪とは、心が神様から離れているということです。神様によって造られたにもかかわらず、創造者である神様に背を向けたために、人はみな死ななければならなくなりました。死は罪の結果です。

キリストは、私たちのその罪のために、十字架にかかって死なれました。自分の罪を悔い改め、十字架を信じれば、私たちはすべての罪が赦され、救われます。そして、キリストが死の中からよみがえられたことを信じる者には、永遠のいのちが与えられ、死に勝つ力が与えられます。私たちを死の恐れから解放するのは、この十字架で死んでよみがえられたキリストだけです。

あなたもぜひ、キリストの十字架と復活を信じてください。そして、罪の赦しと永遠のいのちをいただけてください。復活の希望に生きる生き方を始めようではありませんか。

復活(イースター)についての聖書の記事を読みましょう

ルカの福音書24章1～8節から引用

週の初めの日の明け方早く、彼女たちは準備しておいた香料を持って墓に来た。見ると、石が墓からわきに転がされていた。そこで中に入ると、主イエスのからだは見当たらなかった。そのため途方に暮れていると、見よ、まばゆいばかりの衣を着た人が二人、近くに来た。彼女たちは恐ろしくなって、地面に顔を伏せた。すると、その人たちはこう言った。「あなたがたは、どうして生きている

方を死人の中に捜すのですか。ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、主がお話しになったことを思い出さない。人の子は必ず罪人たちの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえると言われたでしょう。」彼女たちはイエスのことばを思い出した。



宝塚栄光教会

牧師：岩間 洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9 TEL:0797-73-6076

E-mail: info@takara-eikou.com http://www.takara-eikou.com

希望のダイヤル(聖書のお話)

0797-77-3746

毎週更新。24時間つながります。ホームページからも利用できます。

礼拝 毎週日曜日

第一部 9:30～10:30

第二部 11:00～12:00



教会HP



礼拝動画



「クサノオウ」

この季節 穏やかな 暖かい風が 吹いていても
雨や曇りの日があったり 強い風の日があったり
気の抜けない 春の天気である
目まぐるしく 変化する気候にあわせながら
あと もう少しだよと 言い聞かせている

そんなある日 クサノオウの 黄色い花を見つけた
よく陽の当たる 道ばたである
草むらの雑草の中に 咲いていた

小さな花である 4枚の花びらと 何本もの長い雄しべ
白い 縮れた毛に おおわれている
茎や葉を切ると 黄色い汁を出す
この汁は 有毒で 皮膚の弱い人は 炎症を起こす

名前の 「草の黄」といわれるのは 黄色の汁をさし
「瘡^{くさ}の王」とは 皮膚疾患や外傷に対して
古くから薬草とされているからだ

やがて 実ができ 種がこぼれ落ちると
その種は ^{あり}蟻によって 運ばれて ふえていく
道ばたで見た花は けなげで 可憐だった
じっと見ていると 懸命に何か話しているようにあった
命を持って生きている 小さな花だった

わたしの教えは 雨のように 降り注ぎ
わたしの言葉は 露のように 滴る
若草の上に降る 小雨のように
青草の上に降り注ぐ 夕立のように

申命記32章(聖書)